

災害時における 外国人対応 ガイドブック

平成 21 年 3 月

富山県



はじめに

序．災害時の外国人対応チェックガイド・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

1．新潟中越沖地震に学ぶ災害時に必要な外国人支援活動・・・・・・・・・・ 2

（1）なぜ災害時に外国人支援が必要か

（2）柏崎災害多言語支援センターの活動事例

コラム：「顔の見える関係と安心につながる思い」

柏崎地域国際化協会 清水事務局長

2．災害多言語支援センター設置運営マニュアル・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

3．事例研究～高岡市を事例として～・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

（1）データ編「高岡市で災害多言語支援センターを設置・運営する場合」

（2）実践編「高岡市での富山県総合防災訓練の実施から」

4．県内市町村単位でみる留意点・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

巻末資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

（財）自治体国際化協会「災害時多言語情報作成ツール」

やさしい日本語作成例

避難所における外国人受付用名簿

多言語版「緊急シート」

（財）自治体国際化協会からの派遣依頼文書

はじめに

我が国の外国人登録者数は、入国管理法改正の平成 2 年末の 107 万人から平成 17 年末に 200 万人を超え、今後のグローバル化の進展及び人口減少傾向を勘案すると、外国人住民がさらに増加することが予想され、地域社会において、国籍や民族が異なる人々が互いに地域社会の構成員として共に生きていく多文化共生社会の地域づくりを推し進める必要があることから、総務省において、平成 18 年 3 月に「地域における多文化共生プラン」が策定されました。一方、本県での外国人登録者数は、平成 19 年 12 月末において、初めて 15,000 人を超え、入国管理法が改正された平成 2 年からの平成 17 年までの伸び率は全国 2 位となるなど、本県においても外国人住民との共生が重要な課題となっていることから平成 19 年 3 月に「富山県多文化共生推進プラン」を作成したところです。

外国人住民は、地域防災計画上、「災害時要援護者」と位置付けられており、本県の多文化共生推進プランにおいても、外国人への情報の提供などが今後の対策として掲げられています。

このような状況の中、平成 19 年 7 月に発生した新潟中越沖地震では、新潟県柏崎市において、(財)柏崎地域国際化協会が中心となった外国人住民向けの臨時の情報発信組織として、「柏崎災害多言語支援センター」が設置され、災害対策本部から出される日本語情報を翻訳して提供するとともに、ボランティアが避難所を巡回し、外国人被災者に情報を届けるといったきめ細やかな活動が行われました。この活動から、被災時に備え、自治体や地域国際化協会が事前に準備をしておくことができる具体的な支援活動の内容が見えてきたところです。このことから、(財)自治体国際化協会(CLAIR)では、「柏崎災害多言語支援センター」の活動に参加した本課職員を、「災害時における外国人被災者支援のあり方検討会」の事務局に加え、災害時における外国人支援活動のマニュアルが作成されました。

以上のような経緯から、本県においても、外国人住民に対する災害時対応のあり方を検討し、県内で地震等の災害が発生した場合に、県や市町村、地域国際化協会等関係団体が連携して被災時に活動を展開するためのガイドブックを作成しました。このガイドブックは、事例研究から課題を考察する構成となっているため、市町村をはじめとする、各関係機関が自ら課題を洗い出し、対策を進める材料として活用されることを期待しています。

平成 21 年 3 月

富山県観光・地域振興局
国際・日本海政策課長
金森 達雄

序. 災害時の外国人対応チェックガイド

はじめに、「最低限これだけは必要」という外国人被災者のための簡易チェックガイドを示しますが、具体的には地震の規模や被災の状況、地形等によって、大きく支援活動の内容は変化します。このため、次章以降で、平成19年に発生した新潟中越沖地震時での外国人被災者支援活動を踏まえ、具体的事例を検討します。また、避難所の設置・運営、被災者への支援は市町村が中心となるため、このガイドは市町村を活動の主体として取り扱っています。県は言語的サポートや広域連携による支援が中心となっていきます。

まずは安否確認

- 外国人避難者の有無をチェック！
- 外国人登録台帳等の活用！

⇒ 支援の対象となる外国人がいるかどうかを確認します。
避難所に来ていない場合も想定し、外国人登録台帳等を活用して、外国人被災者が潜在化していないかどうか確認します。

次に情報提供

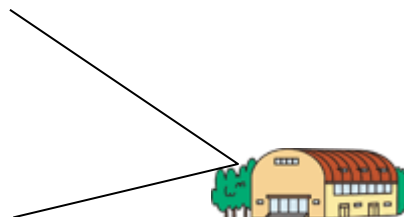
- 「避難所」表記を多言語で！
- 災害対策本部の情報を集約し、多言語化！

⇒ 外国人が自発的に避難所に避難できるように、「避難所」を多言語表記します。
そして、災害対策本部からの情報を多言語化して、外国人被災者へ発信します。

そして広域連携による支援

- マンパワーが不足するときは、外部へ依頼！

⇒ 災害対策本部が設置される自治体は、被災地でもあるため、マンパワーも支援活動にも限界があります。日頃のネットワークを活用し、広域的な支援体制を構築します。



1. 新潟中越沖地震に学ぶ災害時に必要な外国人支援活動

(1) なぜ災害時に外国人支援が必要か

～なぜ外国人支援を考えることが必要か～

外国人は、災害時に特別な支援が必要となる災害時要援護者に位置付けられている。被災時には避難所に避難することなどの行動が必要となるが、災害対策本部から発信される情報は、日本語であり、緊急時に日本語のわからない外国人が避難所へ避難するということは、現実的に難しい。

被災時に対応するための情報には、

- ・ストック情報
- ・フロー情報

の2種類があるが、平時において蓄積(ストック)しておくべき情報と、被災時に発信(フロー)される情報のいずれにおいても、外国人には理解が難しい。例えば、ブラジルではほとんど地震が発生しないことから、被災時の対処方法の教育がなされておらず、防災に関する知識(ストック)が不足している。また、被災時には、災害対策本部の災害情報が多言語化されないため、外国人には被災時に発信(フロー)される重要な情報がほとんど届かないという状況が発生する。しかも、災害時特有の日本語(例:余震、不通、罹災証明等)が使用され、ことさら理解を困難なものとしている。さらに、被災時には、行政や地域国際化協会等関係機関がどのように外国人に対して活動を展開するのかを具体的に記されたものがない。



外国人は災害情報から孤立してしまう可能性が高く、情報を提供することが必要になる。一方で、行政をはじめとした関係機関が、外国人に対して情報を届ける方法も検討する必要がある。

被災者支援については、右表のとおり、富山県の地域防災計画上、①災害未然防止活動、②迅速、的確な初動態勢、③各種の被災者救援活動、④社会諸機能の応急復旧活動というステージに分類されているが、平成19年7月16日に発生した新潟中越沖地震時に外国人支援を行った柏崎災害多言語支援センターでは、その役割・期間を限定的に担っている。被災地復興には中長期的な支援体制が必要であるが、このガイドでは柏崎災害多言語支援センターが担った部分を中心に検討する。

富山県地域防災計画の体系と、柏崎災害多言語支援センターの活動にみる被災時における外国人応急対策

富山県地域防災計画の体系		
区分	内容	
災害未然防止活動	予警報の伝達等	
迅速、的確な初動態勢	応急活動体制、情報の収集・伝達等	
各種の被災者救援活動	救助・救急活動、避難活動等	
社会諸機能の応急復旧活動	ライフライン施設の応急復旧対策等	

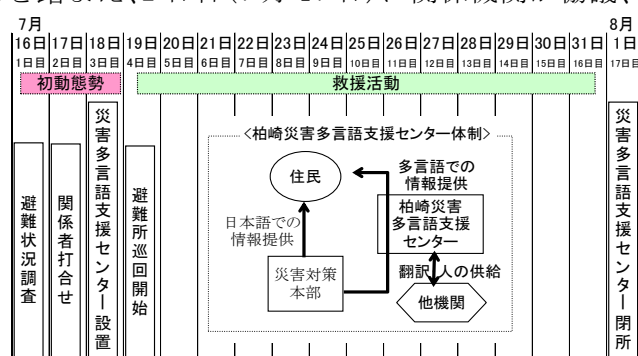
(2) 柏崎災害多言語支援センターの活動事例

柏崎災害多言語支援センターは、外国人被災者への情報伝達のための翻訳～情報提供活動を主な業務としていた。日本語で発信される災害情報を、多言語化して提供することを中心としながら、外国人であることに起因したニーズにも配慮していた。例えば、在留資格や出入国関係、災害に対する経験・知識不足に由来する不安や、異なる文化や生活習慣への配慮。こういった文化の通訳・翻訳も側面的に重要となっていた。このため、避難所への巡回活動を細やかに実施し、外国人への情報伝達・収集を行いつつ、日本人避難者との摩擦が生じないように、適宜、文化の通訳・翻訳も行っていた。

新潟中越沖地震時には、下表のとおり、発災当日に、新潟県が外国人被災者の避難所への避難状況を把握している。これを踏まえ、2日目(7月17日)に関係機関が協議、3日目(7月18日)にセンターを設置、4日目(7月19日)から避難所巡回を実施している。(初動時の各関係機関の動き・役割については5ページのフロー図参照)

このセンターの大きなポイントは、センターが災害対策本部の外に設置され、いわば多言語情報提供を行う専門的セクターとして機能している点と、翻訳やボランティアスタッフ等の

人員の補給を外部機関へ依頼している点である。



初動態勢期 (7月16日～18日)

〈外国人被災者の把握〉

- ・新潟県が、柏崎市災害対策本部へ依頼し、外国人避難者数を集約。この初動時対応と平行して、長岡市国際交流センターがバイク隊により避難所を巡回
- 外国人被災者の状況・避難所への避難状況を把握
- 避難所単位の外国人避難者数及び必要な言語を把握

〈初動体制の整備〉

- ・関係者によるミーティング(活動方針の確定)
- 日常より外国人住民と『顔の見える関係』を構築している(財)柏崎地域国際化協会をサポートする形で、外国人避難者に情報を届ける
- 活動内容(多言語情報の提供・避難所の巡回)・人員体制(コーディネーター、スタッフ、外部との連絡調整)・連携体制(翻訳の一元窓口と翻訳協力機関へ依頼)の決定
 - ①. センターで活動するボランティアのコーディネートは、JICA長岡デスクが担当
 - ②. 翻訳は、新潟県国際交流協会を窓口として新潟市、長野県国際交流推進協会、(特活)多言語情報センターFACIL等へ依頼

③. 県外ボランティアへの連絡・調整は、(特活)多文化共生センター大阪が担当

救援活動期（7月19日～8月1日）

〈柏崎災害多言語支援センター設置〉

(財)柏崎地域国際化協会のある市民プラザ2Fに、臨時組織としてセンターを設置

〈多言語情報の提供〉

多言語化した災害情報を外国人避難者がいる避難所に掲示。センターにおいて、災害対策本部等から提供された情報と、巡回活動から収集した情報を元に、日本語の原稿を作成。この日本語原稿を、新潟県国際交流協会を窓口として全国の機関へ翻訳依頼。翻訳言語は外国人避難者の言語にあわせて6言語(+やさしいにほんご)で対応。緊急の情報はセンターで翻訳。主な提供情報は、被災状況調査や罹災証明、食中毒・熱中症、ガス水道等のライフライン、交通、臨時入浴施設、仮設住宅、ボランティアの派遣要請、原子力発電所等の情報を提供



〈避難所の巡回〉

通訳ボランティアと地元地理に詳しいボランティアがチーム(巡回班)となって巡回し、多言語情報の提供と、必要に応じ、文化通訳等を実施。ボランティアの人数とニーズにあわせ、3～4班体制で巡回

〈FMラジオ放送〉

地元局のFMピッカラで多言語情報放送を実施。あわせて避難者へラジオを無料配布し、放送時間・周波数を周知

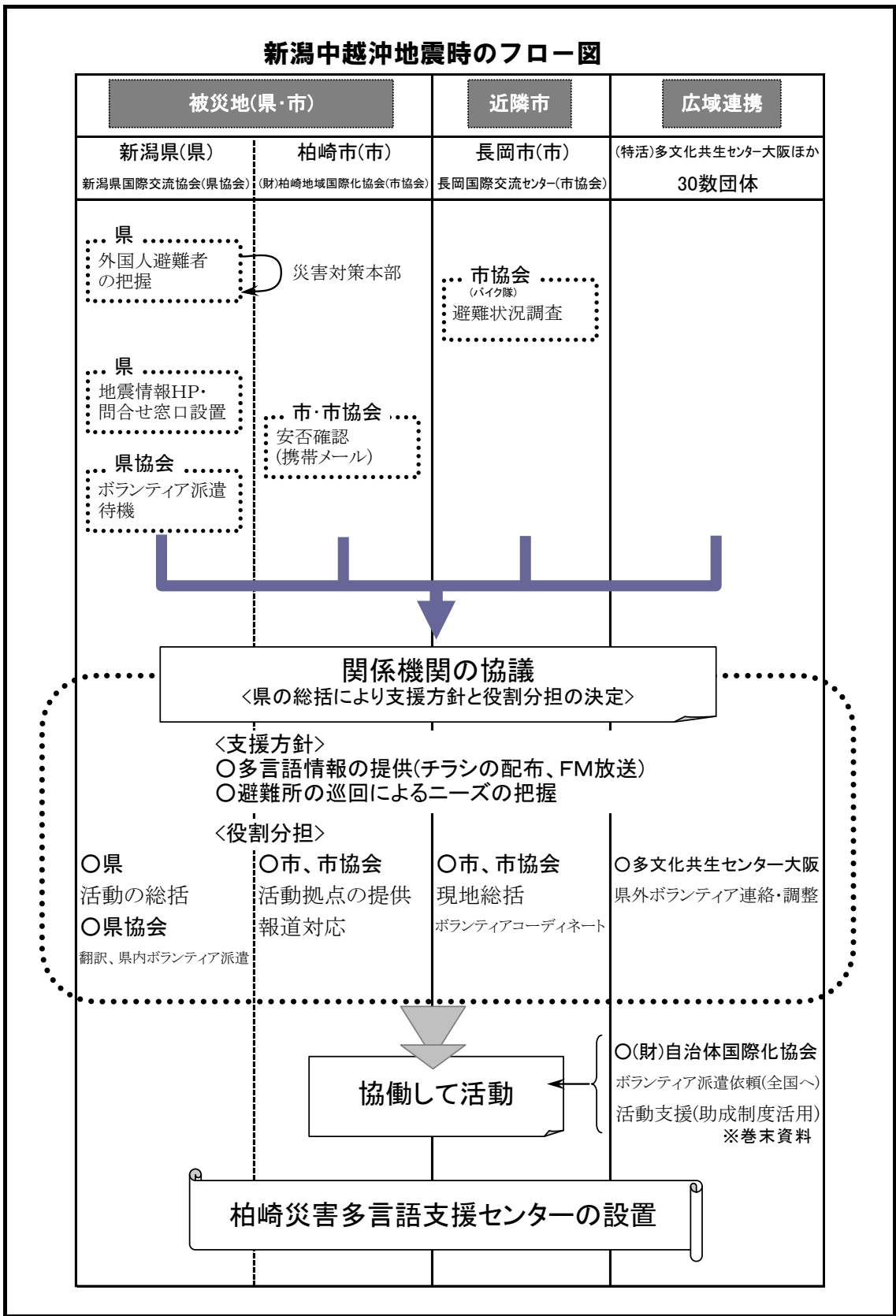
〈避難所巡回の終了〉

避難している外国人が少なくなり、避難所の状況が落ち着いてきたことを踏まえ、巡回を終了

柏崎災害多言語支援センターの1日のスケジュール概要

9:00頃	朝ミーティング
11:00頃 (随時)	翻訳依頼情報の選別と原稿作成 緊急情報の翻訳 新しいボランティアへのブリーフィング
15:00頃	巡回前ミーティング
16:30頃	避難所巡回～巡回レポート作成
21:00頃	夜ミーティング

新潟中越沖地震時のフロー図



顔の見える関係と安心につながる思い

(財) 柏崎地域国際化協会

事務局長 清水由美子

中国風に命名すると7・16地震。 祖国を離れて、日本で住んでいる方々は、さぞ怖かったことでしょう。私も住宅全壊被災者のひとりとなりましたが、不思議と妙に冷静な自分とかなりハイテンションになっている自分とが混在していました。他の人から見たら滑稽な行動もあったかもしれませんが。被災者が情緒不安定になるのは事実です。

普段の日常生活をしているときには何不自由なく、日本語を駆使している外国の方たちも、動揺したり精神的に落ち込んだりした時は、絶対に母国語あるいは分かりやすい表現の日本語が必要であると思います。怖い思いをした災害のときには、なおさらです。

今回活動した多言語支援センターは、センター設置が最初に決まっていたのではありません。まず「災害の時は多言語の支援が必要と」国際関係の仕事をしていて同じ思いを持つ人が集まってくれ、そして場所が必要となり、活動が動き出したのです。

国、県、市、民間が連携してお互いを尊重し、特に地元の事情を尊重してくれました。良くも悪くも地方ならではの事情もあります。先進地からみたら歯がゆいと感じられる動きもあったでしょう。でも地元「宿題を残さない」と動いて下さった皆様に本当に感謝しています。情報は「情けを届ける」と文字分析できます。まさに避難所巡回はその意味どおりでした。巡回してみて、不安な面持ちで体育館にいた外国の方が、母国語で話しかけたり多言語のチラシを渡したりしたら、すーとやわらかな笑顔を返してくれました。

そして、避難所では支援する側、される側という対立関係にあるのではなく、両方が共生関係でした。お年寄りのために重い水を運んでいる留学生がいましたし、洗濯機の使い方がわからないお年寄りのために、フィリピンの方が使い方を教えているのを見ました。避難所での生活ルールを教えているおばあさんもいました。

平時の時に支援体制を考えることは、災害時にたとえハプニングがあったとしても冷静に対処できるはずですが、そのことは外国籍住民に限らず、すべての市民にとっても怖さを克服するだけではなく、安心につながるものだと確信しています。

2. 災害多言語支援センター設置運営マニュアル

この章では、(財)自治体国際化協会が作成した「災害多言語支援センター設置運用マニュアル」を使用し、各市町村でのマニュアルを作成してみましょう。ページの上段が各市町村のワークシート、下段に高岡市の数値を使用して解説や留意点を記載しています。

はじめはワークシートに空欄が多くなると思いますが、その空欄は、各市町村に不足している課題を現しているはずです。関係者と話し合いをしながら、空欄を埋めましょう。

すべての空欄が埋まったときには、各市町村独自のマニュアルが完成しているはずです。

演習 1 在住外国人に関する基礎データ

演習 2 災害時の外国人被災状況予測

演習 3 災害多言語支援センター運営に必要な人員

演習 4 災害多言語支援センター立ち上げ(初動体制)

演習 5 業務の流れ

演習 6 具体的な運営体制

演習 7 翻訳業務体制

演習 8 広域連携体制

以下、外国人登録者数は平成 20 年 12 月 31 日現在、人口は平成 20 年 12 月 1 日現在の富山県人口移動調査の数値による。

演習1. 在住外国人に関する基礎データ

自分の街にどれくらいの外国人が住んでいるのか調べましょう。

演習1
基礎情報

演習2
被災予測

演習3
初動体制

演習4
人員算定

演習5
業務内容

演習6
運営体制

演習7
翻訳体制

演習8
広域連携

【①基礎データ】

人口（日本人＋外国人）	人
外国人登録者数（総数）	人
人口に占める外国人の割合	人

【②外国人登録者の内訳】

	国名	人数	主な在留資格
1		人	
2		人	
3		人	
4		人	
5		人	
6		人	
7		人	

【③地域防災計画の確認】

地域防災計画における指定避難所数	人
地域防災計画における外国人被災者数	人

【解説】

まずは、外国人の居住状況の把握からはじめましょう。

「主な在留資格」からは外国人の傾向がわかることもあります。例えば、永住者であれば、日本語話者も多くいると考えられます。研修・特定活動であれば、特定の企業に従事していることがわかります。日本人の配偶者等は日本人の配偶者、日系2世、日本人の子どもであるため、日本人とのつながりが深いことも考えられます。留学であれば、大学の留学生が多いことも想像できます。

まずは、外国人の居住状況や在留資格を把握し、効果的な支援活動を考えてみましょう。

【①基礎データ】

人口（日本人＋外国人）	182,756人
外国人登録者数（総数）	3,296人
人口に占める外国人の割合	1.8%

【②外国人登録者の内訳】

	国名	人数	主な在留資格
1	ブラジル	1,857人	定住者、永住者、日本人の配偶者等
2	中国	803人	研修・特定活動、日本人の配偶者等
3	フィリピン	267人	永住者、特定活動
4	韓国・朝鮮	113人	特別永住者
5	パキスタン	60人	永住者
6	ロシア	31人	短期滞在
7	その他	165人	永住者、定住者

【③地域防災計画の確認】

地域防災計画における指定避難所数	150ヶ所
地域防災計画における外国人被災者数	未定人

演習2. 災害時の外国人被災状況予測

自分の街で被災した場合、どのくらいの外国人避難者が出るか、シミュレートしてみましょう。

【④外国人避難者数の想定】

地域防災計画または外国人登録者数から、外国人避難者を算定してみましょう。

- a. 地域防災計画上の避難者数 = 人
- b. 外国人登録者数×15% = 人

②の外国人登録者数の内訳

国名	人数	避難者数	言語
1		人	
2		人	
3		人	
4		人	
5		人	
6		人	
7		人	

×15% =

【⑤外国人避難者がいる避難所数の想定】

指定避難所の数から、外国人が避難すると想定される避難所数を算定してみましょう。

- 指定避難所数 → ケ所
- 外国人が避難すると想定される避難所数 → ケ所

【解説】

地震の規模や被災の状況によって、避難者の数が増減しますが、右記のとおり過去の例から、ここでは15%でシミュレートします。

また、外国人は特定の避難所に集中*する傾向があることから、避難所の外国人の割合は、平時よりもかなり高い割合となることが予想されます。

さらに、阪神淡路大震災や新潟県中越地震では、避難所全体の4割が指定外の避難所*であったため、あらかじめ外国人が避難するような場所を想定しておくことも必要です。

*次章(1)②、③(P17)で、さらに詳細な解説を加えています。

【④外国人避難者数の想定】

外国人避難者/外国人登録者数を、ここでは15%でシミュレートします。
新潟県中越地震では18.8%、新潟中越沖地震では12.6%の外国人避難者が出ました。

- b. 外国人登録者数×15% = 人

②の外国人登録者数の内訳

国名	人数	避難者数	言語	
1	ブラジル	1,857人	278人	ポルトガル語
2	中国	803人	120人	中国語
3	フィリピン	267人	40人	タガログ語
4	韓国・朝鮮	113人	17人	韓国・朝鮮語
5	パキスタン	60人	9人	ウルドゥ語
6	ロシア	31人	5人	ロシア語
7	その他	165人	25人	英語その他

×15% =

【⑤外国人避難者がいる避難所数の想定】

新潟中越沖地震では約10%の避難所に外国人避難者が避難しています。

- 指定避難所数 → ケ所
- 外国人が避難すると想定される避難所数 → ケ所
- 10%

演習1
基礎情報

演習2
被災予測

演習3
初動体制

演習4
人員算定

演習5
業務内容

演習6
運営体制

演習7
翻訳体制

演習8
広域連携

演習3. 災害多言語支援センターの立ち上げ(初動体制)

センターの初動体制について考えてみましょう。

- 演習1
基礎情報
- 演習2
被災予測
- 演習3
初動体制
- 演習4
人員算定
- 演習5
業務内容
- 演習6
運営体制
- 演習7
翻訳体制
- 演習8
広域連携

【⑥センター設置箇所】

センター設置の候補地は、どこか考えてみよう。

【⑦センターの組織体制(初動体制)】

センター立ち上げ時の人員体制を、実際に名前を記入しながら考えてみよう。

a. 組織体制



b. 緊急連絡先リスト

	氏名(所属)	電話番号	メールアドレス
センター長			
コーディネーター			
巡回班(通訳)			
巡回班(一般)			
IT班			

【解説】

<センター設置の考え方>

被災地に避難所が開設され、そこに多くの外国人が避難している場合、センターを設置するひとつの目安になります。

<センターの設置箇所>

①被災地に近く、安全が確保されているところ②災害対策本部との間で情報の伝達が容易であること(電話、FAX、インターネット環境が整っていること)③日頃から外国人住民に認知されていること④交通の便の良いことが望ましい設置箇所です。

<各班等の役割及び業務>

「センター長」…活動の総括責任者であり、被災地自治体の国際担当課長等が考えられます。

「コーディネーター」…センターの運営者であり、刻々と変化する被災地・避難者のニーズに適時適切に対処するため、ボランティアに指示を与えるのみならず、外部との連携や活動全体を見渡すことのできる視野を持ち、外国人特有の課題に対応するための幅広い知識と経験が求められます。

「巡回班」…通訳・一般ボランティアで構成。避難所巡回による災害情報の伝達を中心とし、地元FM局への情報提供や災害ボランティアとの連携が想定されます。

「IT班」…外部との情報交換やセンター内の情報共有が中心業務となります。

演習4. 災害多言語支援センター運営に必要な人員

災害多言語支援センターを15日間、運営するために必要なスタッフ数を考えてみましょう。

【⑧各班・役割単位の人数】

- a. コーディネーター 人
- b. 巡回班(通訳ボランティア) 人
- " (一般ボランティア) 人
- c. IT班 人
- } × () 班体制

【⑨活動期間】

センター設置から閉所までの活動期間 日間

【⑩人員所要人数】

⑧、⑨から必要な所用人数を算定してみましょう。

区 分	勤務体制	人数
コーディネーター	泊 日	人
巡回ボランティア	泊 日	人
IT班	泊 日	人
合 計		人

演習1
基礎情報

演習2
被災予測

演習3
初動体制

演習4
人員算定

演習5
業務内容

演習6
運営体制

演習7
翻訳体制

演習8
広域連携

【解説】

新潟県中越地震及び新潟県中越沖地震では、下表のとおり、おおむね2週間程度で避難者数(日本人・外国人)が一定程度落ちついたこと、柏崎災害多言語支援センターにおいても17日目に閉所したことから、ここでは15日間を活動の期間として想定しています。

所要人数の全体的なイメージは、演習6を参照してください。

【⑧各班・役割単位の人数】

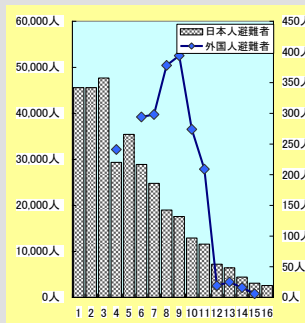
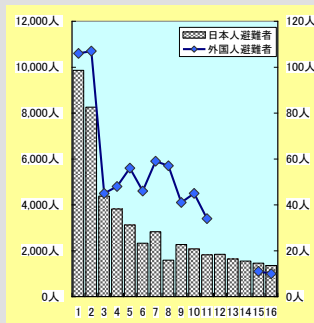
- a. コーディネーター 人
- b. 巡回班(通訳ボランティア) 人
- " (一般ボランティア) 人
- c. IT班 人
- } × 4 班体制

【⑨活動期間】

センター設置から閉所までの活動期間 日間

【⑩人員所要人数】

区 分	勤務体制	人数
コーディネーター	2泊3日	7人
巡回ボランティア	2泊3日	56人
IT班	2泊3日	6人
合 計		69人



演習5. センターの業務の流れ

センターの1日の流れを想定してみましょう。

- 演習1
基礎情報
- 演習2
被災予測
- 演習3
初動体制
- 演習4
人員算定
- 演習5
業務内容
- 演習6
運営体制
- 演習7
翻訳体制
- 演習8
広域連携

【①業務の流れ】

時間	行 動	内 容

【解説】

柏崎災害多言語支援センターの業務の例を参考にすると、以下のような業務の流れが考えられます。

【①業務の流れ】

時間	行 動	内 容
7:00	起床	
8:00～12:00	ミーティング	情報の共有、1日の行動の確認
	班別作業	
	<コーディネーター> 専門機関への問合せや全体のコーディネート <巡回班> 災害情報の切り分け、提供情報の選別。巡回先情報の共有 <IT班> 翻訳情報の作成～外部へ翻訳依頼 資料の整理	
12:00～13:00	昼食	
	班別作業	(午前の作業の続き)
		外部からの翻訳情報の確認
16:00～18:00	ミーティング	巡回先の確認
18:00～20:00	避難所巡回	情報提供、ニーズの把握
21:00～22:00	ミーティング	情報の共有と対応の確認、引継ぎ事項や専門機関への問合せの確認
22:00～23:00	巡回結果とりまとめ	レポートのとりまとめ、引継ぎ
23:00～	清掃、就寝	

演習6. 具体的な運営体制

初動体制に続き、災害多言語支援センターを15日間、運営するために必要な体制を考えてみましょう。

【◎センターの運営体制】

実際に15日間、運営する場合のスタッフの名前を記入してみましょう。

		1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日
コーディネーター	語	1		3			5				7					
	語	2			4				6							
巡回班	1班 一般	語	1		2		3		4		5					
		語	1		2		3		4		5					
		一般	1		2		3		4		5					
		一般	1		2		3		4		5					
	2班 一般	語	1		2		3		4							
		語	1		2		3		4							
		一般	1		2		3		4							
		一般	1		2		3		4							
	3班 一般	語	1		2		3									
		語	1		2		3									
		一般	1		2		3									
		一般	1		2		3									
4班 一般	語	1		2												
	語	1		2												
	一般	1		2												
	一般	1		2												
IT班	語	1		2		3										
	語	1		2		3										

演習1
基礎情報

演習2
被災予測

演習3
初動体制

演習4
人員算定

演習5
業務内容

演習6
運営体制

演習7
翻訳体制

演習8
広域連携

【解説】

15日間の具体的な運営体制を、以下の条件でシミュレートした場合、所要人数は上記のとおり69人となります。

- ・ スタッフの滞在日数は2泊3日とするが、コーディネーターには引継ぎ期間を設ける。
- ・ 避難所巡回班は4人体制とし、一般ボランティアと通訳ボランティアがペアを組む。1班あたり巡回避難所数は、4箇所/日が上限。
- ・ IT班は初動時は2人体制とするが、途中からは巡回班が兼務する。

以上の仮定条件では69人となりますが、ボランティアのすべてが2泊3日体制で参加できるわけでもなく、1泊2日体制ボランティアが多くなればなるほど、所要人数も増加します。

このため、ボランティアのすべてを被災自治体で賄うことは現実的ではなく、広域的な連携が必要となってくるのがわかります。

演習8. 広域連携体制

被災地の地域リソースだけで、災害多言語支援センターを運営していくことは困難です。不足する部分は広域連携で補い合いましょう。

演習1
基礎情報

演習2
被災予測

演習3
人員算定

演習4
初動体制

演習5
業務内容

演習6
運営体制

演習7
翻訳体制

演習8
広域連携

【⑭広域連携】

自分の地域で足りない人材を書き出そう。

必要な人材	依頼先(機関名)	連絡先	応援協定の有無

【解説】

具体的な機関名を入れた例示が以下のとおりです。
被災時に、どこの機関に何を依頼するのか事前に想定しておきましょう。

必要な人材	依頼先(機関名)	連絡先	応援協定の有無
運営主体	富山市文化国際課	〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇	
	県国際・日本海政策課	〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇	有
コーディネーター	(財)とやま国際センター	〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇	
	射水市民国際交流協会	〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇	
通訳ボランティア	(財)とやま国際センター	〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇	
	富山市民国際交流協会	〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇	
一般ボランティア	〇×市	〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇	
ITボランティア	NPO法人〇×センター	〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇	有
翻訳作業	NPO法人多言語〇×センター	〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇	
多言語放送	FMラジオ〇×	〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇	有

3. 事例研究～高岡市を事例として～

各市町村には固有のニーズや地域リソースがあるため、前章のシミュレーションにそれぞれ補正を加えていく必要があります。このため、ここでは前章でシミュレートした高岡市を事例として、さらに詳細な検討を進めてみます。

(1) データ編「高岡市で災害多言語支援センターを設置・運営する場合」

検討課題

〈①基本属性について〉

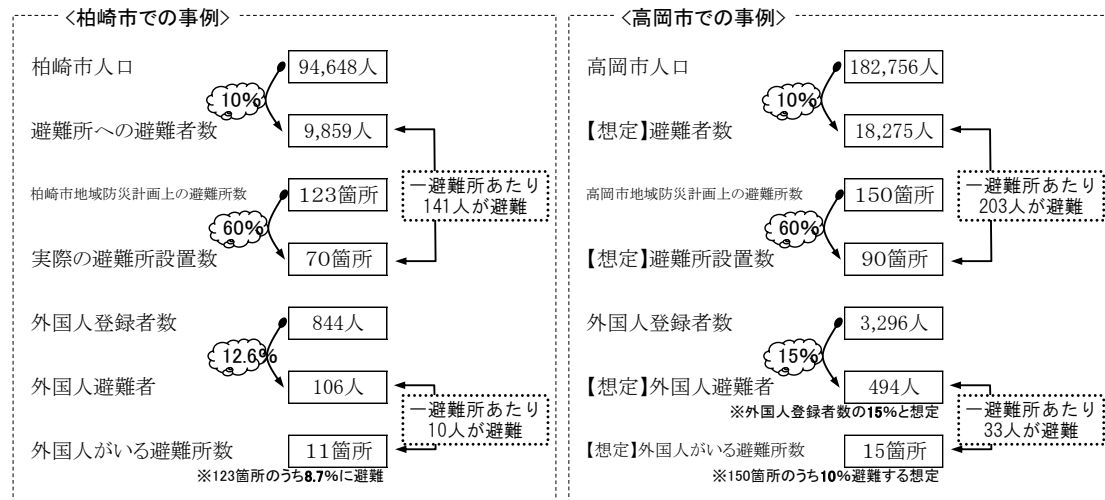
市町村名		柏崎市	高岡市
人口	a	94,648人	182,756人
面積	b	442.70 km ²	209.37 km ²
人口密度	c=a/b	214人km ²	873人km ²
外国人登録者数	d	844人	3,296人
外国人比率	e=d/a	0.89%	1.80%

高岡市は柏崎市の約2倍の人口規模であるが、面積はその半分以下であるため、人口密度は約4倍となります。さらに、外国人登録者は約4倍となっているため、**多くの外国人被災者が、避難所に集中**することが予想されます。

→面積
地形や道路交通網
により避難所への
巡回所要時間は変
動する

〈②外国人避難者数等について〉

前章の演習2の外国人被災状況予測に、日本人の避難者数も加えると、下表のとおりとなります。



高岡市では 90 箇所の避難所設置が予測され、1 避難所あたりの平均避難者数は 203 人となります。一方、外国人避難者総数は 494 人に上り、この避難者が 15 箇所の避難所に外国人が避難すると仮定すると、1 避難所あたりの平均外国人避難者数は 33 人となります。この予測からは、平時の外国人登録者数の人口比率の 1.8%を大きく上回り、避難者の 16.2%が外国人となることが予測されます。このため、避難所内は一変して外国人集住都市化^{*1} すると考えられ、避難所内に専任のスタッフ(多文化共生マネージャー^{*2} 等)を常駐させるなど、多文化共生に配慮した避難所運営が必要になります。

〈③地区別避難者〉

校区別に外国人の分布を見た場合、下表のとおり、校区ごとに、かなりの乖離があることが見られます。ここでは分布上、かなりの開きがあることを指摘するにとどめますが、**避難所によっては、かなりの外国人避難者が集中**することが予測されます。

校 区	外国人登録者	外国人避難者予測
A校区	549人	82人
B校区	337人	51人
C校区	270人	40人
D校区	232人	35人
~~~~~		
Y校区	9人	1人
Z校区	0人	0人
	3,296人	494人

〈④センターの設置箇所〉

柏崎災害多言語支援センターは、(財)柏崎地域国際化協会が入居する市民プラザ内 2F の会議室に設置されました。この理由は、(財)柏崎地域国際化協会が平時からの在住外国人との結びつきが強いため、外国人被災者が災害情報を求めて、協会に問い合わせ、あるいは実際に出向いて来る可能性が高いと判断したためです。協会に隣接した会議室にセンターを設置したため、災害対策本部からの FAX 情報は、協会へ届くよう ルート設定しました。

高岡市国際交流協会は御旅屋セリオ(オタヤセリオ) 7F に入居しています。在住外国人が高岡市国際交流協会に情報を求めてくる可能性を考えた場合、同協会の近くに設置することが望ましいですが、電気の供給が止まっていると仮定した場合、**7F に設置することは、非現実的**と考えられます。

センターは、災害対策本部からの情報が得られやすいよう公の施設

→90 箇所  
阪神淡路大震災、新潟中越地震時には指定外避難所が約 4 割設置されたことから、指定外避難所へのニーズ捕捉も必要となる  
また、新潟中越地震時には外国人がホテルに避難する事例もあり、宿泊施設への情報提供も視野に入れる必要がある

→集中  
新潟中越地震時には、図書館に 100 人、市役所に 40 人の外国人の避難者が集まったことが報告されている。

→ルート設定  
既存の電話、FAX が使用できることが望ましい。また IT 環境が整っていることが望ましい。

での設置が望ましいですが、外国人被災者の視点に立った場合、平時から外国人との結びつきが強く、高岡市国際交流協会近隣にある(財)富山YMCA高岡センターに設置する方法も検討されます。

〈⑤まとめ～高岡市で検討を進めておきたい事項～〉

○外国人被災状況予測

校区単位の外国人居住状況や避難所の状況を確認し、外国人が集中して避難する避難所を予測してみましょう。

○地域リソースの確認

外国人支援活動の拠点場所の選定や、高岡市国際交流協会、外国人支援NPO、日本語教室や外国人の多く集まるエスニックショップとの連携を考えておきましょう。

○多言語対応の想定

ポルトガル語等多言語スタッフ・通訳ボランティア、一般ボランティアの確保、他機関への協力を依頼する場合は、依頼先や応援言語の確認をしておきましょう。

※1:「外国人集住都市」とは、南米日系人を中心とする外国人が多数居住する自治体のことをいう。

平成20年度末現在、外国人集住都市会議の会員は26自治体

※2:(財)自治体国際化協会が平成18年度より(財)全国市町村国際文化研修所(JIAM)と共催して開催してる多文化共生研修の上級者向けコースで、各種施策の推進に必要な知識や技術を習得する「多文化共生マネージャー」の養成に取り組んでいる。平成20年度末で、113名の同マネージャーが認定されている(うち本県マネージャー5名)。

多文化共生マネージャーは全国の自治体職員や国際交流協会のスタッフが中心で、新潟中越沖地震時には、多くの多文化共生マネージャーが柏崎災害多言語支援センターの活動に参加している。

## (2) 実践編「高岡市での富山県総合防災訓練の実施から」

平成20年度の富山県総合防災訓練は高岡市で実施され、この訓練にあわせて、県が主催する防災訓練としては初めて外国人住民が参加する訓練を実施した。

被害想定は以下のとおりで、高岡市在住の外国人が避難所(志貫野中学校)に避難してきたという想定で、避難訓練を実施した。

実施期日 平成20年9月6日(土)

災害想定 午前7時、法林寺断層を震源とするM7.2の地震が発生し、高岡市で震度6強を観測。建物が崩壊し、火災が多発、ライフラインの被害等が発生。伏木沖では暴風雨、波浪により波高5m超の高波が発生。大雨により河川が増水し、小矢部川の堤防が一部決壊のおそれがある。

### 訓練の考え方

災害対策本部から被災者に対して発信される情報は多言語化されていないため、これに対応する訓練を実施。

また、高岡市在住外国人の約6割はブラジル人であるが、ブラジルではほとんど地震が発生しないことから、地震に関する災害時の意識啓発も行った。

今回、実施した防災訓練の場合、初めての試みということもあり、比較的、実施が容易な訓練を選定。また、災害時において、外国人が要援護者となる特性、すなわち情報弱者となることから、情報伝達に主眼を置いた。

このため、この2種類に配慮した訓練を実施した。

主な訓練内容は、次のとおり。

- ・講習会(被災時の対処方法について)
- ・情報伝達訓練(被災時に発信される災害対策本部の情報の難解さ及びその重要性の認識)
- ・体験訓練(知識として得たものを体験して理解を深める)

### 【参集訓練】9:30~10:10

- ・在住外国人

参集した在住外国人は、高岡市在住で、日本語のほとんど理解できない者を中心に、13名が参加。国籍は、外国人登録とほぼ同様の比率で、ブラジル人、中国人が中心。

避難所での受付後、大きな地震が発生したため、避難所に避難してきたという状況説明を、やさしいにほんごで実施。外国人専用の受付名簿を使用



(※巻末資料)。

・外国人支援ボランティア

外国人支援ボランティアは、地元高岡市の国際交流協会のほか、近隣市町村(射水市)で開催されている日本語教室(ワイワイにほんご・たいこうやま)に参加するボランティア(日本人、外国人)を中心に、富山市民国際交流協会の防災ボランティアも応援にかけつけたという設定で、16人が参加。

訓練では、災害ボランティア本部(※1)に「多言語情報センター」機能が付与されたという前提で、ボランティア本部において、受付を実施。受付時には携帯電話の連絡先や通訳可能言語を名簿登録すると同時に、ボランティア保険パンフレットを示し、保険に加入することを説明。各ボランティアは、その場で手書きした名札を首から提げ、胸には手書きした「災害情報センター」と表示するカラーガムテープを貼付(通訳ボランティアは「ポルトガル語」等、腕に貼付)、社会福祉協議会の腕章をした。また、今回は使用しないものの、「巡回レポート」(※2)を示し、ボランティア同士が情報を共有する必要性を説明。被災時には、情報処理能力が低下することを踏まえ、このガイダンスもやさしいにほんごで実施。

なお、日本語教室のボランティア(日本人)は、教室において、やさしいにほんごを使用しているため、即戦力として機能することが期待された。また、教室に参加している在住外国人が、高岡市の外国人を支援するという、共助の実現の誘引としても、地域の日本語教室から参加することは意義深い。

(※1)ボランティアセンターとの連携については、今後の課題。

(※2)「巡回レポート」…避難所の巡回結果を避難所単位に記録するもの。外国人の国籍、ニーズ等を記載。

【情報伝達訓練】 10:20～10:50

情報伝達訓練では、新潟中越沖地震時に、実際、発信された災害対策本部からの情報を使用し、次の4種の情報伝達を実施した。

- (1)余震情報
- (2)上水道情報
- (3)罹災証明情報
- (4)災害ボランティア情報

これらを、①原文、②やさしいにほんご、③翻訳の3種類で、次々に伝達を試みた。体育館内で、家族単位にグループを作り、円座して実施。

参加した避難者、ボランティアともに、②やさしいにほんごの重要性を痛感した。中には、日常生活で日本語を使用する外国人であっても、①原文はもちろん、③ポルトガル語でも理解することが困難で、②やさしいには





んごであれば、理解できたという感想もあった。このことから、初動時に、通訳が確保されない場合において、やさしいにほんごから逐次、情報発信・伝達を開始していくという手法も想定可能となった。ただし、原文をやさしいにほんご(※巻末資料)へ翻訳(変換)する場合、相応の経験や能力が必要であることに留意する必要がある。

#### 【講習会】 10:50～11:20

講習会では、被災時から出来事を時系列に説明を行い、まず地震が起きたら何をするか、どう対処するか、避難所とはどこにあり、何が提供されるのか。そして、中長期復興に向けて、何が必要となってくるのかといった日頃から備えておくべき知識を、プロジェクター、スクリーンを利用して視覚的に説明。この講習会は、より正確に理解してもらうため、国際交流員(県・市CIR)による逐次通訳を入れた。

参加した外国人からは、「地震に対する考え方が変わった」という根本的なことから、「日頃から避難するための準備をしておかなくてはならない」「避難所では助け合いが必要」といった感想があった。



講習終了時には、被災時に必要となる情報を網羅した多言語版「緊急シート」(巻末資料)を配布し、パスポートや財布に綴じこむよう説明。あわせて消防防災博物館発行の「地震に自信を」という防災パンフレットを配布。また、今回の訓練から得たものについて、友人・知人にも口コミで広げてもらうよう依頼。

#### 【体験訓練】 11:30～12:00

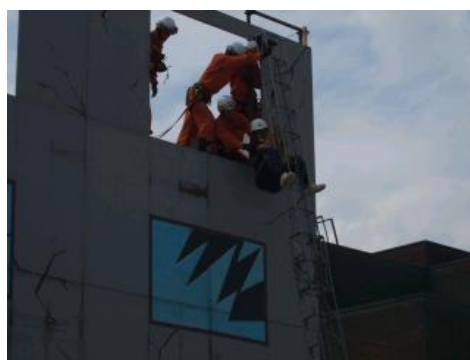
体験訓練では、

- ・煙中訓練
- ・地震体験
- ・初期消火訓練 を実施した。

煙中訓練では、わずか数mのトンネルがとても長く感じられ、怖いと感じ、被災の恐怖を体験した。

地震体験では、新潟中越沖地震の揺れを再現。体験者は、これほどまでに地面が揺れるという状況が、すぐに飲み込めないようでもあり、想像を絶する体験をした。

初期消火訓練では、日本人を含めたほとんどの体験者が、的(出火元)に当たるまでに何度か放水を繰り返しており、すぐに消火できるものではないということを経験した。





この他、会場には仮設の給水設備やトイレが設営され、また、消防車による高所救助訓練などが実施されており、物々しい雰囲気を経験。

### 【多言語FM放送】

2時間の生放送番組に多言語情報の放送を実施した。この放送内容は、情報伝達訓練に使用されるものとまったく同じものに加え、放送局が平時からも放送しておきたいという「緊急装置」についての説明も多言語で放送した。訓練当日には、FM局まで移動する時間がないため、事前にCIRが放送局に出向き、収録したものである。

### 〈想定される外国人支援活動と、訓練で実施した活動の対比表〉

想定される活動	訓練時に実施した活動
<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所への避難</li> <li>・<b>「避難所」の多言語表記</b></li> <li>・<b>災害情報の切り分け・加工・翻訳</b></li> <li>・<b>外部との連絡・データの送受信</b></li> <li>・情報提供 (避難所への掲出)</li> <li>・<b>ニーズの把握</b></li> <li>・<b>巡回レポート等の作成</b></li> <li>・<b>スタッフのミーティング</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所への避難</li> <li>・情報提供 (ボランティアによる避難所巡回・情報提供) (多言語放送)</li> </ul>

災害時における外国人支援体制の構築は、一度にすべてのことを実施できるとは限りません。

具体的な外国人支援活動を念頭に、平時から準備を進めておくことができることと、訓練で実施できることを事前に切り分けて、緊急度の高い部分から事業を進めるなどの工夫が必要となります。

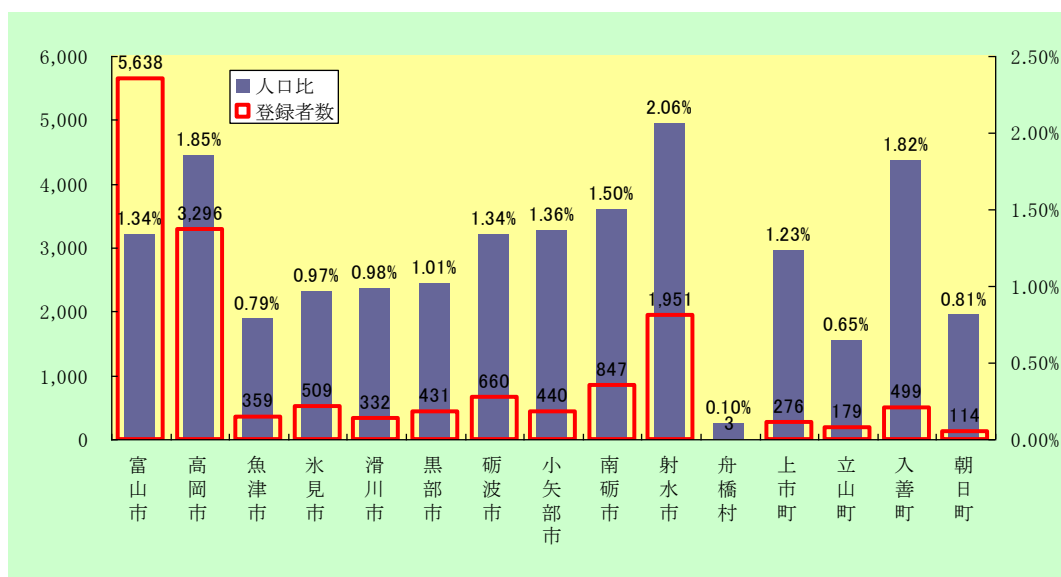
## 4. 県内市町村単位でみる留意点

県内の外国人登録者数は、市町村単位で見た場合に大きな偏りがあります。

下グラフは、県内の外国人登録者数と人口比(外国人登録者/人口)ですが、外国人の人数では富山市、高岡市、射水市という順に多く登録されています。人口比でみた場合は、射水市、高岡市、入善町の順に、高い比率で外国人が登録していることがわかります。

高い比率で外国人が居住している市町村では、避難所における外国人の割合も高くなると予想され、文化や言葉の違いが大きく影響し、**日本人避難者との衝突が高い可能性で生じることが考えられます**。また、災害時には外国人避難者のニーズが平時よりも著しく増加すると予想されます。これらを解決するためには、きめ細やかな支援活動を展開する必要がありますが、地域リソースが不足することも懸念されます。このため、緊急度の高いニーズから対応するトリアージの考え方をを用いるなどの工夫が必要にもなります。

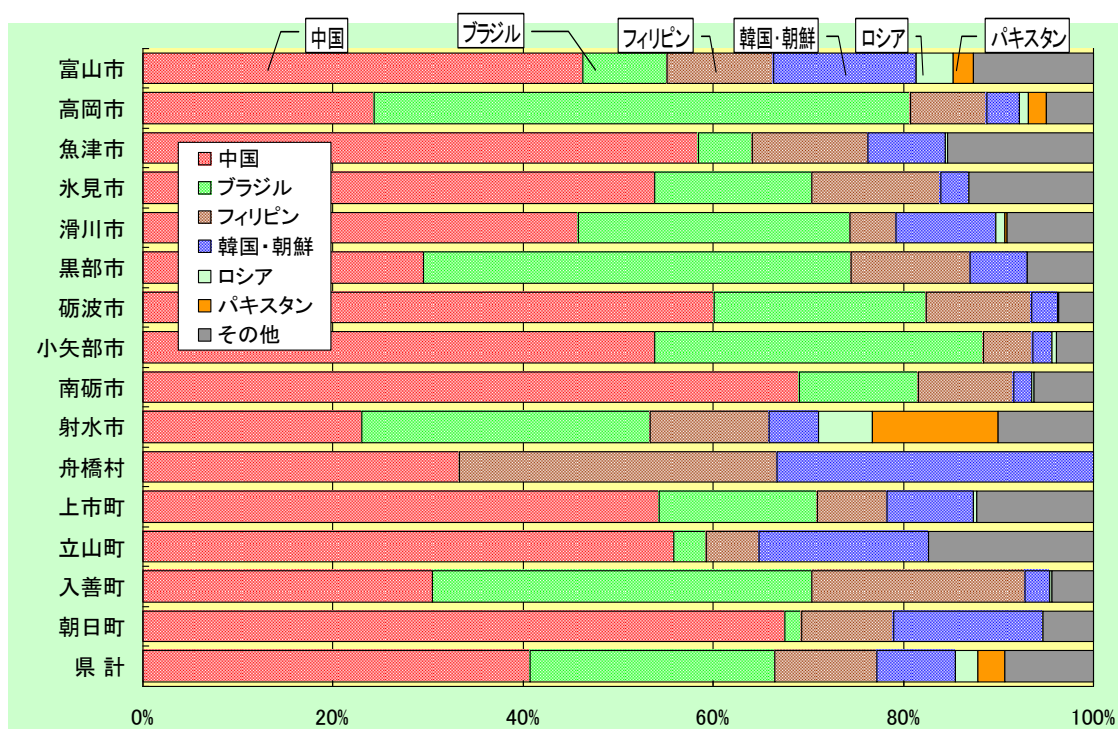
これとは逆に、**外国人が少数しか居住していない市町村では**、日本人と婚姻関係にあるなど結び付きが強い場合もありますが、その一方で、外国人との接点や外国人同士のネットワークがないために、**外国人が潜在化する(見えない存在となる)危険性もあります**。このため、外国人と日本人がつながり、お互いの顔が見える関係になっている必要があります。



また、**外国人居住者が多く、外国人比率も高い市町村では**、近年、国際交流団体等と協力・連携しながら、多文化共生事業が展開され、地域リソースが着実に充実してきている一方、多言語情報への翻訳ボランティアや防災ボランティアの育成途上であるともいえます。自前の人材だけで外国人支援活動を実施することは難しく、**広域的な支援が必要となります**。

このときに注意しておきたいのが、広域連携の相手方となる自治体における外国人住民の国籍や在留資格等の状況です。

下グラフは市町村別国籍別の外国人登録者の状況です。市町村別に国籍を見た場合、それぞれの市町村ごとに、その構成が大きく異なることがわかります。他県の場合、近隣自治体は国籍や在留資格等が似たような傾向となる場合が多いですが、本県の場合、それぞれの市町村で国籍や在留資格等が大きく異なっているという特徴があります。すなわち、翻訳言語や配慮すべき文化背景が、それぞれの市町村によって異なることがわかります。このような状況を踏まえ、広域による連携先も想定すべきであり、少なくとも周辺市町村にどのような外国人が居住しているか、確認しておく必要があります。



これらに加え、在留資格や、居住状況、日本語教室やエスニックコミュニティの存在などの様々な条件が、外国人被災者支援の活動を予想するための変数要素として考えられます。

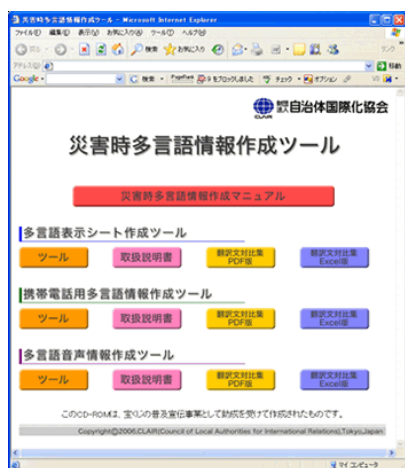
以上のように、災害時における外国人対応は、それぞれの市町村ごとに異なる支援活動となることが考えられ、各市町村での事前の準備・分析が必要となります。

序章にある簡易チェックガイドのおおまかなフレームで、外国人支援を行っていきることになりますが、各市町村ごとの固有の背景に配慮しながらも、支援活動を展開する必要があります。

## 巻末資料

### 〔財〕自治体国際化協会「災害時多言語情報作成ツール」

〔財〕自治体国際化協会では自治体等による外国人住民に対する円滑な情報提供を支援することを目的として、使用することが多い6つの言語(英語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語)による「災害時多言語情報作成ツール」を作成している。新潟中越沖地震時には、翻訳機関において、実際に活用されるなど、自治体等においては緊急時に速やかに使用できるよう準備しておくことが必要。



### やさしい日本語作成例

やさしい日本語の作成は次の点に注意して作成しましょう。

1. 簡単な言葉を使うこと
2. 文節を短く、分かち書きにすること
3. 文章の構造を簡単にすること

こちらは市の災害対策本部です。  
余震が発生していますので、倒壊している家屋や倒れそうな家屋には、危険ですので絶対に近づかないで下さい。また、崖崩れやひび割れのある所へも近づかないようにして下さい。

たかおかし  
こちらは 高岡市 です。  
ちい じしん お  
小さな 地震 が つづいて 起きています。  
ちゅうい  
注意 してください。  
あぶ い  
危険なところに行かないでください。  
こわ いえ あぶ  
壊れている家は 危険 です。  
こわ いえ あぶ  
壊れそうな家は 危険 です。  
やま ちか あぶ  
山の近くは 危険 です。  
じめん わ あぶ  
地面が 割れているところは 危険 です。  
あぶ い  
危険なところには 行かないで ください。

## 避難所における外国人受付用名簿

避難所受付名簿(外国人用)				No.	
1	氏名及び性別 Name in full and sex	姓(Surname)	名(Given names) (Middle name)	男 M. 女 F.	国籍/言語 Nationality/language
2	氏名及び性別 Name in full and sex	姓(Surname)	名(Given names) (Middle name)	男 M. 女 F.	国籍/言語 Nationality/language
3	氏名及び性別 Name in full and sex	姓(Surname)	名(Given names) (Middle name)	男 M. 女 F.	国籍/言語 Nationality/language
4	氏名及び性別 Name in full and sex	姓(Surname)	名(Given names) (Middle name)	男 M. 女 F.	国籍/言語 Nationality/language
5	氏名及び性別 Name in full and sex	姓(Surname)	名(Given names) (Middle name)	男 M. 女 F.	国籍/言語 Nationality/language
6	氏名及び性別 Name in full and sex	姓(Surname)	名(Given names) (Middle name)	男 M. 女 F.	国籍/言語 Nationality/language
7	氏名及び性別 Name in full and sex	姓(Surname)	名(Given names) (Middle name)	男 M. 女 F.	国籍/言語 Nationality/language
8	氏名及び性別 Name in full and sex	姓(Surname)	名(Given names) (Middle name)	男 M. 女 F.	国籍/言語 Nationality/language
9	氏名及び性別 Name in full and sex	姓(Surname)	名(Given names) (Middle name)	男 M. 女 F.	国籍/言語 Nationality/language
10	氏名及び性別 Name in full and sex	姓(Surname)	名(Given names) (Middle name)	男 M. 女 F.	国籍/言語 Nationality/language

# 多言語版「緊急シート」(おもて)

## Disaster / Emergency Card

Name: _____  
 Address: _____  
 Closest Refuge / Shelter: _____  
 Meeting point when separated from family: _____  
 _____  
 Domestic contact details: _____  
 Overseas contact details: _____  
 Embassy contact details: _____  
 Special notes: _____

- How to use a Fire Extinguisher**
- ① Pull the safety pin up and out
  - ② Take the hose out and point it at the fire
  - ③ Pull the lever strongly
- Posture for using a Fire Extinguisher
- Stand facing away from the wind
  - Use your lower back and drop your weight
  - Don't stand directly in front of the fire so as to avoid smoke and fumes
  - Aim at the base of the fire rather than the flame and move the extinguisher back and forth

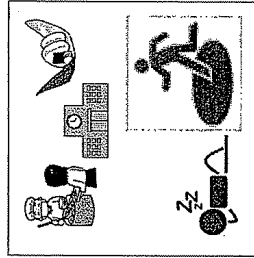
### Disaster Preparation Checklist

Food	<input type="checkbox"/> Water <input type="checkbox"/> Foodstuffs
Glasses (& Contact lenses)	<input type="checkbox"/> Glasses (& Contact lenses)
Outerwear	<input type="checkbox"/> Rain coat <input type="checkbox"/> Underwear
etc	<input type="checkbox"/> Towel <input type="checkbox"/> Gloves <input type="checkbox"/> Sanitary products <input type="checkbox"/> Nappie, milk etc <input type="checkbox"/> Portable radio <input type="checkbox"/> Torch
Items	<input type="checkbox"/> Batteries <input type="checkbox"/> Cell phones & charger <input type="checkbox"/> Bags <input type="checkbox"/> Plastic sheet <input type="checkbox"/> Rope
First Aid	<input type="checkbox"/> Medicine <input type="checkbox"/> First aid kit <input type="checkbox"/> Wet tissues
Valuables	<input type="checkbox"/> Passport <input type="checkbox"/> Foreign Reg card <input type="checkbox"/> Money <input type="checkbox"/> Health Ins Card <input type="checkbox"/> Bank book <input type="checkbox"/> Personal seal

### Contact Details for myself and my family

Name	D.o.B	Bood Type	Tel. no	Cell ph. no.

# Disaster Preparations



### Emergency Contact Numbers

First Aid (sudden illness or injury)	119	Fire	119
"Kyoubuyou desu (kega o shimashta) Kyuukyuuusha onegaishimasu"	119	Police	110
• Where the problem is	• Your name and phone number	Fire / Ambulance	119
• "Koutsuu jikkou desu"	• Your name and phone number	Imizu City Hall	0766-57-1300
• Place	• Situation	Imizu Fire Dept	0766-56-0119
• Crime	110	Shimminato Fire D	0766-62-3333
• What's happened	• Your name and phone number	Electric problems (Hokuriku)	0120-77-6453
• Place	• Your name and phone number	Denyoku	0766-84-8118
• Traffic Accidents	110	Gas leaks (Nihonkai Gas)	0766-84-8118
• "Koutsuu jikkou desu"	• Your name and phone number	Phone probs (NTT)	113
• Place	• Your name and phone number	Water leaks (Imizu City Hall)	0766-84-3000
• Situation	• Your name and phone number		

At a public phone press the red button and dial 110 or 119.

### Contact Numbers

Police	110
Fire / Ambulance	119
Imizu City Hall	0766-57-1300
Imizu Fire Dept	0766-56-0119
Shimminato Fire D	0766-62-3333
Electric problems (Hokuriku)	0120-77-6453
Denyoku	
Gas leaks (Nihonkai Gas)	0766-84-8118
Phone probs (NTT)	113
Water leaks (Imizu City Hall)	0766-84-3000

### Disaster Information

- FM Imizu 79.3MHz
- Public broadcasting cars
- 防災行政無線放送
- Imizu Cable TV
- Imizu City website (<http://city.imizu.toyama.jp/>)
- Disaster information message
- Disaster information boards
- Docomo (<http://dengen.docomo.ne.jp/top.cgi>)
- AU (<http://dengen.auweb.ne.jp/>)
- Softbank (<http://dengen.sanbank.ne.jp/>)
- Multilingual Disaster Broadcast Centre (<http://osef.jp>)

多言語版「緊急シート」(うら)

Earthquakes Information

Japan has a lot of earthquakes with about 15% of the world's quakes occurring in Japan. Let's be sure to prepare well!  
If you're shaken about

Take care of your own safety first and foremost. Be careful of shelves, bookcases & anything that can fall.

- After the earthquake
- Put out any fires
- Take refuge. Take care of any falling items when you go outside.

Earthquake Information - Points

- Be careful of falling objects.
- Be very careful of tidal waves (tsunami), landslides, and crumbling cliffs.
- Take refuge in shelters (safe areas) (Many schools and public buildings are designated shelters) My shelter is _____
- Be sure to get correct information from radio and TV.

Refuge / Shelter Information

When refuge preparation info is broadcast

The need to take refuge is high so please prepare asap.

When refuge advice is broadcast

→ Take refuge asap

Calmly make way to a refuge centre

When refuge orders are broadcast

→ Take refuge immediately

Refuge centres have food, doctors, places to sleep, and information. Everyone can use the shelters.

Things to be careful in a shelter

Economy Class Syndrome

- Move your fingers and toes while sitting.
- Drink plenty of water.
- Wear loose, comfortable clothes.
- Staying on trains/buses etc and Carbon Monoxide Poisoning
- Open the window for fresh air regularly.
- Let fresh air in while using the Air conditioner

Useful Japanese for Disasters / Emergencies

English	日本語
Help!	助けて! Tasukete!
Is there someone there who can speak English?	英語を話せる人はいますか。 Eigo o hanaseru hito imasa ka
I don't understand Japanese.	日本語がわかりません。 Nihongo ga wakarimasen
Please write here.	ここに書いてください。

Post Office	郵便局 yuubinkyoku
Please call ○○	○○を呼んでください。
An ambulance	救急車 消防車 警察 医者 通訳
A fire engine	
The police	
A doctor	
An interpreter	通訳
I'm injured	けがをしています。

Where is ○○??	Koko ni kaite kudasai
Please take me there.	○○はどこですか。 連れて行ってください。
Refuge / shelter	避難所 Hinanjo
Hospital	病院 Byouin
Toilet	トイレ Toire
Phone	電話 Denwa
Food / drink	食料・水 Shokuryou / mizu
City Hall	市役所 Shiyakusho
Police	警察 Keisatsu

I'm not feeling well	体の調子が悪いです。
Please find ○○	○○を探しています。
My family	家族 ペット
A bed for me	
There's a fire	火事です。
There's been an accident	事故です。
Please draw a map	地図を書いてください。

**(財)自治体国際化協会からの派遣依頼文書**

19自国地第67号  
平成19年 7月20日

各地域国際化協会事務局長 様

財団法人自治体国際化協会  
事務局長 田中 健

**新潟県中越沖地震被災地に要する外国人相談等巡回ボランティアの  
派遣について (依頼)**

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

当協会の事業運営につきましては、平素から格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、平成19年7月16日に発生いたしました新潟県中越沖地震は、新潟県全体に甚大な被害を引き起こし、現在、様々な支援が必要とされているところです。

また、外国人被災者については、財団法人新潟県国際交流協会の避難所巡回報告により、避難場所が広範囲に渡り、これら外国人被災者の状況の把握や相談業務等を行う巡回ボランティアについて相当な人数が必要であることが明らかになりました

財団法人自治体国際化協会では、この状況を踏まえ、外国人相談業務等に精通されている各地域国際化協会の皆様に対し、別紙1の条件により巡回ボランティアの派遣を依頼申し上げます。

つきましては、ご多忙のところ大変恐縮ですが、この趣旨にご賛同いただける団体におきましては、別紙2連絡票によりFAX又は電子メールにて平成19年7月24日(火)までにご連絡くださいますようお願い申し上げます。

なお、巡回ボランティア派遣に要する費用(旅費等)につきましては財団法人自治体国際化協会「災害時外国人住民支援活動助成金」の支援対象となりますので、積極的に本制度をご活用いただき、職員派遣についてご配慮をお願いします。

連絡先 (財)自治体国際化協会地域支援課(担当 松波・高野)  
東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル19F  
TEL03-3591-5483 FAX 03-3591-5346  
e-mail chishi@clair.or.jp



### 外国人相談等巡回ボランティアに係る要件

- ・ 2泊3日で柏崎市を訪問し、避難所巡回のできる方  
※日程につきましては被災地団体と協議の上連絡させていただきます。
- ・ 災害時通訳ボランティアなどの研修を受けた職員が望ましい。
- ・ 活動については、当面7月末までを予定
- ・ ボランティアの宿泊場所については市民プラザを予定。  
※同所は避難所となっていますが、寝具等の用意はありませんので、持参をお願いします。また、食事についても炊き出し等を利用されるか、営業を再開している店舗等で各自調達をお願いします。
- ・ 派遣に係る費用は原則として、派遣元で負担してください。  
※クリアの助成金の対象となりますので、制度を活用される場合には別途申請をお願いします。

(財) 自治体国際化協会 地域支援課 (松波・高野 宛)

FAX 03-3591-5346

E-mail chishi@clair.or.jp

新潟県中越沖地震被災地に要する外国人相談等巡回ボランティア  
の派遣に関する連絡票

団体名・ 所属	
担当者名	
電話番号	

派遣職員

団体名・所属	職名	フリガナ 氏名